

病態薬物治療学A (Pharmaco-Therapeutics A)					担当教員
					教授 秋葉 聡
					講師 石原 慶一
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
薬学専門教育（講義）	3年次 前期	講義	1.5単位	必修	

【概要】

病態薬物治療学は、疾患の特徴や個々の患者の病態に基づいた薬物治療に携わるために必須となる知識を学ぶ科目である。本科目では、疾患の原因・病態や治療薬の作用を生化学的・生理学的に捉え、臨床検査値の変動と病態との関連性や、治療薬の選択・使用上の配慮などについて学習する。病態薬物治療学Aでは、代謝性疾患と腎疾患を中心に概説する。

【授業の一般目標】

薬物治療に携わるための知識と思考力を身につけるために、疾患の原因・病態・臨床検査値・治療薬に関する基礎的な概念や捉え方を習得する。

【準備学習(予習・復習)】

事前に、糖・脂質・核酸の代謝や、腎の構造・機能について、生化学、生理学、解剖学で学んだ関連知識を復習してから講義に臨むことを推奨します。講義中に書き留めたメモなどを、講義後に別のノートに整理・まとめ直すことを推奨します。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	本講義概説・糖尿病	秋葉	疾患の病態や臨床検査値の変動を把握することが薬物治療上必須となることを理解する。 糖尿病の主な病態と分類について説明できる。	C14-(3)- -1
2	糖尿病	秋葉	1型および2型糖尿病の原因について説明できる。	C14-(3)- -1
3	糖尿病	秋葉	メタボリックシンドローム、インスリン抵抗性、および糖毒性に伴う2型糖尿病の発症機構について説明できる。	C14-(3)- -1
4	糖尿病	秋葉	合併症の原因と糖尿病での臨床検査値の変動について説明できる。	C14-(3)- -1
5	糖尿病	秋葉	糖尿病治療薬（経口血糖降下薬）の作用機序および適切な使用について説明できる。	C13-(3)- -1 C14-(3)- -1
6	糖尿病・脂質異常症	秋葉	代表的なインスリン製剤と合併症治療薬の適切な使用について説明できる。 リポタンパク質の種類と役割について説明できる。	C14-(3)- -1,2
7	脂質異常症	秋葉	脂質異常症の主な病態、分類、および原因について説明できる。	C14-(3)- -2
8	脂質異常症	秋葉	インスリンの作用不足に伴う脂質異常症について説明できる。	C14-(3)- -2
9	脂質異常症	秋葉	脂質異常症での臨床検査値の変動と、治療薬の作用機序および適切な使用について説明できる。	C14-(3)- -2 C13-(3)- -2
10	腎疾患	石原	腎機能および機能検査について説明できる。 おもな腎疾患やその症状について概説できる。	C14-(3)- -1
11	腎疾患	石原	急性腎不全、薬剤性糸球体腎炎・急性糸球体腎炎の原因、病態、臨床検査値の変動、および治療薬について説明できる。	C14-(3)- -2,4
12	腎疾患	石原	慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群など慢性腎臓病の原因、病態、臨床検査値の変動、および治療薬について説明できる。	C14-(3)- -3,4
13	高尿酸血症	石原	高尿酸血症の原因および病態について説明できる。	C14-(3)- -3
14	高尿酸血症	石原	高尿酸血症の治療薬とその用法について説明できる。	C14-(3)- -3
15	総括・まとめ			

（書名）

教科書 病態薬物治療学A講義ノート
参考書 疾病と病態生理（改訂第3版）

（著者・編者）

秋葉 聡、石原慶一
橋本隆男、佐藤隆司 編

（発行所）

京都廣川書店
南江堂

【成績評価方法・基準】

定期試験の成績で評価する。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

講義内容に関する質問がある場合には、各教員にメールにて出張等での不在の有無を確認してから来るか、または、メールでも受け付けます。

オフィスアワー：月・水・金の18:00～19:00

メールアドレス：秋葉：akiba@mb.kyoto-phu.ac.jp, 石原：ishihara@mb.kyoto-phu.ac.jp